

経営目標 教育目標	【学校経営目標】 全教職員が、主体的組織的に学校教育目標の達成に向かう学校づくり	めざす 生徒像	社会に貢献できる資質能力を身につけた生徒 ・「夢・実現」に向けて主体的に学び挑戦する生徒 ・郷土を愛し、世界に目を向ける生徒 ・神石高原中学校生徒の心得が実践できる生徒
	【学校教育目標】 未来を切り拓く生徒の育成		

評価計画				自己評価				担当者	学校関係者評価					
中期経営目標	短期経営目標	重点	目標達成の方策 (具体的な取組内容)	評価項目【指標・目標】	時期	達成率	評価		達成状況	改善方策	イ	ロ	ハ	コメント
確かな学力	主体的な学習を実現し、学力の向上を図る (自ら学ぶかこい子)	1	生徒の主体的な学習を促す授業を展開し、学力向上を図る。 多様な機会を設定・推奨し、自己決定させることで生徒のチャレンジ精神を養う。	・「くぐくんtime」や必然性のある場面設定、課題設定と振り返りの充実を図る。 ・自学学習ノートの活用と学習サイクルの定着を図る。	①標準学力調査において結果を出している【2・3年生を対象に同質集団における標準学力調査の全国平均との経年比較+3P(全国平均を超えた教科は、全国平均の+3P以上)である教科10教科中5教科以上】 ②自学学習ノートの効果的な活用ができています【効果的な活用ができた生徒の割合50%以上】	中間	①未実施 ②100%	①D ②A	①まだ実施していない ②自学学習ノートの効果的な活用 1年6人,2年13人,3年23人 全体47人/79 (59.4%)→100%達成	自学学習ノートを他者と取り組み交流したり、日々のノートを確認し、取り組みのアドバイスをしたりすることを継続する。	教務	○		①40%しか達成できなかったことに着目しもっと厳しく現状を把握する必要がある。 ②自学学習ノートの活用を引き続き取り組んでください。学習サイクルの活用にも有効だと思います。教科の偏りがない自学学習となるよう期待します。
				・英検・数検・漢検への挑戦機会を提供する。 ・幅広い挑戦機会を創出し、参加についての自己決定場面をつくる。	①各種検定に挑戦している【英検、数検、漢検の受験者の割合60%以上】 ②各種検定に挑戦し、結果を出している【3年生の中で3級以上を取得している生徒の割合30%以上】 ③他の各種挑戦機会に参加している【各種挑戦機会に参加している生徒の割合30%以上】	中間	87.9%	B	①英検、数検、漢検いずれかを受けた生徒36人/79(45.5%)→75.9%達成 ②3年生のうち、いずれか3級以上合格者9人/28(32.1%)→100%達成 ③*生徒への様々なチャレンジを働きかけており、集約は行わないこととした。 達成率 (75.9+100)÷2=87.9%	チャレンジする生徒を学校全体で応援する雰囲気づくりをする。具体的には、検定にチャレンジする生徒名を生徒玄関に掲示したり、1年で3回以上のチャレンジをした生徒を表彰したりする。各教科で、検定を意図した呼びかけを継続する。				
豊かな心	社会に貢献できる生徒を育成する (やさしくあたたかい子)	2	地域に貢献できる生徒を育成する。 ポランティア活動を推奨し、貢献機会をつくり、意欲を高める。	・地域教材の活用や地域人材を招いての学習等、「地域を学ぶ」「地域で学ぶ」学習を実践する。	①地域のことに学ぶことを肯定的に捉えている【意識調査における、「地域のことが好き」「地域のために何かしたい」「地域のことをもっと知りたい」の各項目の肯定的評価85%以上】	中間	87.3%	B	①意識調査における、「地域のことが好き」80.9%→95.1%達成 「地域のために何かしたい」69.9%→82.2%達成 「地域のことをもっと知りたい」72.1%→84.8%達成 達成率 (95.1+82.2+84.8)÷3=87.3%	地域ふれあい行事等地域に出ていく行事や地域教材を使用する道徳を中心に、教育活動全体で、「地域で学ぶ」を実践する。	教務	○		「地域のことが好き」と答えた生徒は昨年より増加している。このことはかねてより取り組んでいる地域にふれあい地域を知るとい学習がよい結果となっているのだと思う。
				・生徒会活動を中心としたボランティア活動を実行する。	①生徒会が計画するボランティア活動へ参加している【二回以上参加する生徒の割合80%以上】 ②地域貢献の意識が向上している【意識調査における、「将来、地域のために何か貢献しようと思う」の肯定的評価80%以上】	中間	76.8%	C	①3回企画し、2回以上参加した生徒50人(64.1%)→80.1%達成 ②7月アンケート結果58.8%→73.5%達成 達成率(80.1+73.5)÷2=76.8%	年間であと3回のボランティア活動を計画している。また、校内から校外へ目を向けた臨時的ボランティア活動等計画し、自発的に活動できる機会を設定する。				
健やかな体	心と体の成長を促す健康教育を推進する (しなやかでつよい子)	3	他者との違いを認め、共に歩む集団を育成する。 様々な運動機会を創出し、体力づくりを進める。	・学期に一回以上のライフスキルトレーニングを実施する。 ・異年齢集団等の活用により行事づくりを進める。 ・スクールカウンセラーによる全員面談の実施。	①自己肯定感が向上している【意識調査における、「自分にはよいところがあります」の肯定的評価65%以上、「自分のよさはまわりの人から認められていると思います」の肯定的評価60%以上】	中間	98.6%	B	①1学期生徒アンケート「自分にはよいところがあります」63.2%→97.2%達成 「自分のよさはまわりの人から認められていると思います」61.8%→100%達成 達成率(97.2+100)÷2=98.6%	学年実施に即したライフスキルトレーニングを計画的に行っていく。文化祭等によって異年齢集団の関わり合いを増やしていく。SCによる全員面談を1学期に全学年実施済み。2学期も計画していく。	生指	○		年間を通して指導していく中で自己肯定感や人から認められているという感覚は徐々に上がってこなければいけないと思う。まずこのことを重く受け止める必要がある。職員全体で来年度以降の指導方法を話し合い今後に生かしていただきたい。
				・体育的行事づくり、ランランtime、運動部活動(体力)強化週間、からだほぐし週間等を通して、運動意欲と体力の向上を図る。	①運動意欲が向上している【意識調査における、運動しようとする意欲のある生徒の割合90%以上】 ②体力が向上している 体力テストの本校の目標(各学年4種目) ・男子1500m 全国平均+25秒以内 ・女子1000m 全国平均+35秒以内 ・男子長座体前屈 全国平均-3cm以内 ・女子長座体前屈 全国平均-5cm以内 【上記目標を全学年で9種目/12種目以上達成】	中間	80.3%	B	①運動しようとする意欲(84.6%)→94.0%達成 ②・男子1500m 全国平均+55秒 ・女子1000m 全国平均+26秒 ・男子長座体前屈 全国平均-4.8cm ・女子長座体前屈 全国平均-6.3cm ・目標達成6種目/12種目(50.0%)→66.6%達成(持久走0/6、長座体前屈6/6) 達成率(94.0+66.6)÷2=80.3%	一過性の体力評価だけではなく、運動習慣の定着と運動意欲の向上を図る。 日々の運動習慣の定着を図る。				
働き方	教職員のゆとりとやりがいを高める	4	業務の効率化により超過勤務時間を削減する。 教職員のやりがいを高める。	・研修日、定時退校日の設定や、分掌業務等のスリム化を図り業務改善を進める。	①超過勤務時間が削減できている【職場全体の年間平均超過勤務時間昨年度比5%削減】 ②定時退校が実現できている【全員が定時退校できる日年間20日以上】	中間	72.5%	C	①4~8月:5.5%削減→100%達成 ②4~8月:9回/20→4.5%達成 達成率(100+45)÷2=72.5%	個人業務の時間を確保するために、勤務時間内での組織の動き(分掌業務等)を月間計画に位置づけ、業務に見直しを持たせる。	総務	○		時間だけではなくかもしれませんが、引き続き効率化に努めていただきたい。
				・自己の興味や強みを生かした挑戦したいことを設定し、実行に向けた支援体制を整える。(業績評価へ挑戦事項を設定する)	①職場のやりがい・満足度が向上している【職員の意識調査における、「仕事に対するやりがいを感じる」の肯定的評価80%以上、「職場に対する満足度(相談・人間関係・雰囲気)」の肯定的評価90%以上】	中間	90.7%	B	①仕事に対するやりがい13人/15人(86.6%)→100%達成 ②相談できる12人(80.0%)人間関係の構築11人(73.3%) 職場の雰囲気10人(66.6%) (平均73.3%)→81.4%達成 達成率(100+81.4)÷2=90.7%	安心して頑張ることができる。挑戦できるよう、教職員間の関係性の質を高めると共に組織的な業務の枠組みを改善していく。				

【自己評価 評価基準】
A: 100% ≤ (目標達成)
B: 80% ≤ (ほぼ達成) < 100%
C: 60% ≤ (もう少し) < 80%
D: (できていない) < 60%

【学校関係者評価】
イ: 自己評価は適正である。
ロ: 自己評価は適正でない。
ハ: わからない。